

# キッズランドかみ保護者懇談会記録

「公私連携による両キッズランドの運営(民営化)について」

平成28年1月19日(火) 19:00～21:20

出席者：保護者8名、町議1名、

「両キッズランドの民営化が本当にいいのかを考える会」5名

計14名

事務局：岸原教育長、こども未来課 今中、足立、多方所長、今中園長、吉井主任

内容：教育長あいさつ

こども未来課からパワーポイントによる説明

意見交換会

## ■主な意見・質問と回答

- ・建設してからまだ5年しか経っていないのに、なぜいま民営化なのか。  
→将来的に民営化したほうが財政的に有利であることと、現状の公立では保育士の確保がなかなか難しいことなどから、民営化を検討している。
- ・民営化になれば、確実に保育料は安くなるのか。  
→民営化すれば確実にかなりの経費が節減できるので、子ども・子育て会議で協議し保育料を安くしていくことも含めて考えていきたい。
- ・これまでは公立園で、町が目がずっと行き届く状態であるが、民営化になれば公私連携といいながら、行政の目が行き届くのか。  
→行政が深く関わっていく方法が公私連携方式なので、事業者とお互いに連携しながら、また町が指導監督を行いながら進めていきたい。
- ・運営主体が民間になるので、どこまで町の権限があるのか疑問。細部まで意見を言えないのではないかと。とても無理のように思う。民間に対して発言ができない。  
→協定書のなかでどこまでうたうのか、これから検討ということになる。言うべきところは、しっかり言えるようにしていきたいと考えている。
- ・こども園の運営になれば、保育士の採用について町が意見を言えるか。良い保育士を町に選んでほしい。  
→採用試験のことまでは意見が言えないが、良い保育士をこども園に選んでいただきたいと考えている。
- ・説明画面では、町の都合の良いメリットばかりが並べられていて、民営化にもっていく筋道ができているようである。  
→まだ決まっている訳ではなく、これから地域、保護者等との懇談会を重ねていき、子ども・子育て会議で協議し、方向性を出していきたいと考えている。
- ・このまま行けば、必ず民営化になるに違いない。  
→地域や保護者の皆さんに不安が残ったまま進めていくつもりはないので、今後も懇談会でいろんなご意見をお聴かせいただきたい。
- ・お金がないのなら、はっきりお金がない、民営化させてほしいと単刀直入に説明すればどうか。  
→お金のことを前面に出したくはないが、お金のことを出さないことには説明ができないことをご理解いただきたい。あくまでも子どものことを第一に考えていきたい。

- ・保育・教育の質向上のためとうたっているが、具体的に何をやるのか。  
→幼稚園教育研修事業の充実や5歳児教育カリキュラムの統一化をやっていきいたいと考えている。
- ・子ども・子育て会議での議論が気になる。「民間園に 7,000 万円もの補助金が出ていることに驚いた」（保護者発言）があるが、民営化すれば試算以外にも民間園に対して補助金が必要になるのではないかな。  
→認定こども園化にかかる1回のみ補助金で、毎年必要になるものではない。よって、試算以外に補助金が必要になるようなことはないと考えている。
- ・園に不満がある場合、公立園なら保護者が園に対して意見できるが、民間園なら意見しても聴いてもらえないのではないかな。  
→民間園に対してもどんどん意見を言ってもらえればと思う。園に対してでもよいし、教育委員会に対してでもよいので、不満がある場合はご意見をお寄せいただきたい。
- ・運営する法人はどのような相手を考えているか。できれば2園を同じ法人に受けてもらうほうが良いのではないかな。  
→町内の学校法人または社会福祉法人を考えている。2園を同じ法人に受けてもらうのかどうかは、選定委員会で決めていきいたいと思う。
- ・子ども・子育て会議の会議録で、「土地は有償賃貸、建物・備品等は有償譲渡・賃貸とあるが、法人一つで施設を一つ運営している状態ではなかなか買い取るという資金は持っていない。貸与なら・・・検討が必要だと思う」とあるが、条件はどのように考えているか。  
→建物は無償譲渡か無償貸与、土地は有料賃貸もしくは無償貸与を考えているが、今後、子ども・子育て会議で協議していきいたい。
- ・施設は有料譲渡か、有料賃貸か、無償譲渡か、無償貸与になるのか。町の財産を法人に譲渡または貸与して、営利目的のために運営を任せることは本当に良いのか。  
→建物は無償譲渡か無償貸与、土地は有償賃貸もしくは無償貸与を考えているが、今後、子ども・子育て会議で協議していきいたい。法人の営利目的のために運営を任せるのではない。児童福祉施設なので、県の監査もあり、利益を出してはいけないことになっている。
- ・運営を受けてくれる社会福祉法人がなければ、どうなるのか。  
→受けてくれる法人がない場合は、民営化の話はなしと考えている。
- ・保育料が安くなっても、保育・教育の質が下がるのなら、民営化しないほうがよい。たとえ保育料が上がっても、公立のままでよい。  
→保育・教育の質が下がるということは、あってはならないことと考えている。質が下がらない方法を模索していく。
- ・子どものためにきちんとお金を使うようにすべき。庁舎の建設こそが無駄である。  
→民営化することによって節減できた経費は、子どものために使うべきと考えている。何に使うのかは、子ども・子育て会議で協議していきいたい。
- ・保護者は園に対して不満もないし、何も問題がないのに、なぜ民営化するのか。  
→将来的に公立運営ではあらゆることについて厳しくなっていくということ、また民営化したほうが財政的に有利であることなどから民営化を検討している。
- ・もっと具体的な説明をしてもらわないと、イメージがわからない。  
→今回は配付資料なしであったが、次回からは資料に基づいて説明をさせていただきたい。

- ・なぜ保護者との懇談会が先に開催なのか。地域との懇談会を先に開催すべきでないか。  
神戸新聞に先に掲載されたことも問題。  
→子ども・子育て会議で協議の結果、まずは保護者懇談会の開催ということになった。もちろん地域との懇談会も今後、計画していく。
- ・地域協議会にまず意見を聴かなければならないのではないか。中町幼稚園の閉園のときも、地域協議会には相談がなかった。  
→今後、必要であれば地域協議会の意見も聴いていく。
- ・民間が運営すればサービスの向上が期待できるとアンケート結果にあったが、設問のあり方にも問題がある。  
→平成25年度に保護者アンケート調査を実施したが、設問内容は子ども・子育て会議で協議して決めた。
- ・全国の保護者アンケート調査の集計はあるのか。把握しているか。  
→各園がそれぞれの内容で調査をされているので、比較できるものはない。全国的な調査集計のデータがあるかどうかは調べてみる。
- ・中区のこども園では、公立キッズランドや中町幼稚園のような5歳児教育がきちんとできているのか。できていないと思う。保護者の人気取り（ダンスなど）に力を入れていて、机にきちんと座る授業をしていないと聞く。  
→各こども園とも年齢に応じた教育・保育を行っていただいております。幼保連携型認定こども園教育保育要領に基づいて実施されている。中区内の民間園も、公立キッズランドと同じように5歳児教育をしていただいていると考えています。
- ・今後の各園の定員は、どうなっていくのか。  
→少子化により定員規模は少なくなっていくと思うが、10年後、20年後、30年後、40年後の児童数を予測しており、町内5園で運営ができていくと考えています。
- ・小学校へのつなぎのために、どのようなことを考えているか。  
→幼稚園教育研修事業の充実や5歳児教育カリキュラムの統一化をやっていきたいと考えている。また、幼小連携事業など、幼稚園・保育園・認定こども園・小学校が連携しながら、各種事業を進めていきたい。
- ・公立園の存在意義は重要。民間園、公立園の選択の自由があってもいいと思う。  
→公立園、民間園、いろんな選択肢があるのは理想だが、多可町の現状を考えるとなかなか難しい。ご理解いただきたい。
- ・参加者に資料の配布をすべきである。  
→今回は画面のみの説明であったが、次回からは資料配付するようにしたい。
- ・もう少し保護者がたくさん参加できるように（特に母親）、時間設定も含め検討してほしい。  
→検討させていただく。保護者の皆さんが多くお集まりになる保護者会総会の場合などをお借りすることも含めて検討したい。
- ・サービスが向上するなら民営化もありと思うが、具体的にどうなっていくのかが見えない。  
→今回の懇談会ではもう少し具体的な説明をさせていただきたいと考えている。
- ・庁舎の建設も、中町幼稚園の閉園も、すべて決まってからの住民説明会であり、住民の意見が少しも取り入れられていない。みんな行政のやり方に呆れているので、懇談会に

も出席しない。

→まだ方向性が決まった訳ではないので、皆さんから多くのご意見を頂戴したい。

- ・加美区には1園しかないなので、民営化して園が悪くなったとしても、選択できる園がなくなる。

→1園しかないので、悪くならないように、公私連携で取り組んでいきたい。

- ・将来的にも、法人がずっと運営してくれる見込みはあるのか。

→保育所や認定こども園等に対する施設型給付費は続いていくと思うので、法人がずっと運営していただけたらと考えている。

- ・将来的に子どもの数が減っていくなかで、法人が運営できる見込みはあるのか。撤退したらどうするのか。

→将来的に子どもの数が減っていったとしても、40年後までは町内各園は存続できると考えている。小規模になっても子ども1人あたりの運営費補助単価は上がることになるので、心配なしと考えている。

- ・民営化になれば、園の定員はどうなるのか。0歳児とか1歳児とか、途中入園でも入れるのか。

→現在のキッズランドの定員をそのまま引き継ごうと思っている。入園申込みはできるだけ前年の11月末までにお願いしているが、可能な限り受け入れる方向で考えている。近年、0歳児、1歳児の途中入園が多いので、保育士の配置ができない場合にはお断りするケースも出てくる。

- ・公立園と民間園で、5歳児教育の質に差はあると考えているか。

→差はないと考えている。

- ・民営化について、正面から反対しているのではない。

# キッズランドやちよ保護者懇談会記録

「公私連携による両キッズランドの運営(民営化)について」

平成28年1月26日(火) 19:00～20:20

出席者：保護者6名、祖父1名、町議2名 計9名

事務局：岸原教育長、こども未来課 今中、足立、萬浪所長、秋山園長、小西主任

内容：教育長あいさつ

こども未来課からパワーポイントによる説明

意見交換会

## ■主な意見・質問と回答

- ・説明を聞いていて、合併当初から民営化の方向で進むことが決まっていたように感じた。今後の方針決定は、子ども・子育て会議でされるのか。  
→子ども・子育て会議で方針を出し、議会で決定をしていただく予定である。
- ・民営化のメリットばかりが並べられているが、デメリットは。  
→保護者や地域の皆さんが不安を感じられることが一番のデメリットであると思う。でも、少しずつその不安を取り除いていきたい。他に、正職員が一般事務職に異動しなければならない点もデメリットである。
- ・町内の法人に受けてもらうとのことだが、もし受け手がない場合は。その場合は、町外の法人になるのか。  
→現時点では、町内法人で受け手がない場合は、民営化なしと考えている。
- ・キッズの先生方は、今後子どもたちにずっと関わっていくということで各種の研修を受けられていると思うが、町の一般事務職に異動するのはもったいないような気がする。  
→ごもっともで、教育・保育に関わる部分では研修の成果は生かされないが、別の視点で将来役に立つことがきつとあると考える。
- ・町内の法人のうち大きな母体ということになると、あさか、みどりになると思う。どちらも宗教色が強く、保護者としては不安。公立でなんとかやる方法はないのかと思う。  
→今年度から町内の公立、民間の各園で、同じ内容の保護者アンケート調査を実施している。民間園の結果も見せていただいたが、公立園と同じように保護者満足度が高い結果となっている。そのような心配はないと考える。
- ・何も町内の法人に限定しなくてもいいのではないか。町外ですばらしい教育・保育をしておられる法人に任せることも考えていいのでは。しっかりやってもらえて、特色ある教育をしてもらうことも検討されては。  
→町内の法人に限らず、町外の法人も含めて公募をすることも検討していきたい。
- ・今後、公立として運営していくことが困難になっていくことは前々から分かっていたことではないか。もっと前に手を打つ方法がなかったのか。子どものことを最優先に考えることが大切であるのに、どうも数字的なことばかりで説明をされている。  
→財政的に厳しくなることは分かっていたので、合併当初から正規の保育士を採用しない方針で今日まで来ている。ご指摘のように、子どもの最善の利益を求めていくことが重要であるので、教育・保育の質が下がることのないように取り組んでいきたい。
- ・公立としてなんとかやる方法がないのか、また町外から多可町へ通う子どもたちが増えるような手立てを考えることはできないのかと思う。どちらかという、民営化には反対である。

- 民営化するほうが国・県からの手厚い補助を受けることができるので、受けることができるものはうまく受けることを考えていきたい。国はいろんなものを民営化していく方針であるし、国に従わない市町村にはさらに厳しい財政措置が講じられる予定なので、ご理解いただきたい。
- ・ 民営化について保護者や地域住民が強く反対した場合、中止や延期はあるのか。  
→ 強い反対運動が起こった場合、延期になることはあるかもしれないが、今後、懇談会を重ね丁寧な説明をしていきご理解を得ていきたい。
- ・ 受けた法人が数年で撤退した場合はどうなるのか。また、次の受け手が決まるまでの間はどうか。  
→ 撤退ということは絶対あってはならないことなので、事業者を選定する段階で慎重にやっていきたい。将来的にずっと引き受けていただける事業者を皆さんとともに選んでいきたい。
- ・ 公が深く関わるといいながら、法人の運営方針に基づいてされていくような気がする。これまでキッズが大切にして継続されてきた学年活動などの行事は引き継いでもらえるのか。  
→ 民営化後は、保護者、町、事業者による三者懇談会の継続開催を考えている。そういった要望は三者懇談会で出していただき、事業者に受け入れていただくよう調整していきたい。
- ・ 先生のことが一番気がかり。嘱託職員の皆さんは残っていただくとしても、あとの3割の先生が集まるのか不安。ベテランの先生方が多く抜けられることになるので、なんとか町から給与を上乗せしてでも残ってほしい。  
→ 民間園には保育士の処遇改善分が運営補助金として支給されることになっているので、公立で保育士を募集するより有利であると考えている。正職員にこども園に残ってもらい、給与の差額を町から補てんするのは不可能である。
- ・ 将来、子どもの数が減っていったときに、法人として運営ができていくのか。補助金が減っていき、町から補助金を出す必要が出てくるのではないかと。  
→ 将来の子どもの人口予測もできており、少子化が進んでも法人として運営できると試算している。園の規模が小さくなくても、その分、子ども1人に対する運営費補助単価が上がるので、問題なしと考えている。
- ・ 年度によって子どもの数が極端に減る年がある。その場合に、余った先生の賃金やそれに対する補助金はどうなるのか。  
→ 入所する子どもの数によって、必要な保育士数を計算している。年度によって子どもの数が減る年があるが、その場合に、余った保育士分の給与は「チーム保育加配加算」や「3歳児配置改善加算」などを付けることにより補助金を受けることができるので、問題なしと考えている。
- ・ 皆さんの思いも、町の思いも、差がないと考えている。子どもたちのことを一番に考え、国から受けることができる補助はできるだけ受け、また民でできることは民でしていただき、子どものための教育・保育の質を高めていきたいと考えている。国も、町も財政事情が苦しいことをご理解いただきたい。国の動きが、民営化を推進する方針になりつつある。町を維持していくためにも、民間との連携を検討していきたい。（教育長）
- ・ 今後、保護者の皆さん、また地域の皆さんとの懇談会をできるだけ開催し、意見交換の場を設けていきたい。さらに、保護者の皆さんが多くお集まりになる場でもご意見をお聴きしたり、アンケートを取ることも含めて検討していきたい。（こども未来課）

## 加美区地域協議会 記録

平成28年2月16日(火)19:30～  
加美プラザ研修室1

### ◆出席者（敬称略）

藤本典久会長、小林均副会長、山口礼子、木俣孝子、吉川公平、足立吉継、遠藤佐代子、藤原美奈子、足立和喜子、西村久志、丸山幸夫、金高健作、伏原朝臣、藤村正幸、岸原教育長、今中こども未来課長、小林加美地域局長、杉原課長補佐、板倉

### ■主な意見・質問と回答

- ・3区の保育環境が全く違っていたので、同じになるように取り組んできたところがあるが、どこがどう違っていたのか、また同じにする必要があったのか。  
→中区と加美区には5歳児の幼稚園しかなく、3年幼稚園の選択肢がなかったことが大きい。合併当初から、どの区のお子さんでも同じ教育・保育を受けることができる条件整備、そして町内どの園も保育料が同じということを目指して取り組んできた。
- ・町財政の支出を抑えるとあるが、一方で節減できた経費を子どものために使うとある。余った分を全部使うのであれば、支出を抑えることにならないのでは。  
→民営化すれば年間に約1億円の経費を節減できるので、そのうちのいくらかを子どものために回したいと考えている。例えば、5歳児の保育料を無料にするとか、他にどのような施策がよいのかを子ども・子育て会議で協議していきたい。
- ・土地は無償貸与もしくは有料賃貸とあるが、差が大き過ぎるのでは。また、建物を無償で渡すのは法人の利益につながるのではないか。  
→法人に受けていただきやすい条件とするために、土地は無償もしくは安価での賃貸を考えている。建物については、無償譲渡もしくは無償貸与にしないと補助金返還の必要性が生じるので、そのように考えている。できれば、無償譲渡とし、法人の名義にし、以後の維持管理・修繕経費は法人にお任せしたいと考えている。保育所や認定こども園は児童福祉施設であるので、年間に一定額以上の利益を出してはならないこととされており、2年に1回、県の指導監査がある。あくまでも児童福祉施設であり、利益を出していただくための施設ではないと捉えている。
- ・法人は公募により決定とあるが、考えられるのは中区のあさか、みどり、四恩くらいである。すでに話は進めているのか。3法人とも宗教色が強く、心配である。公私連携型として、宗教色が強い法人に任せてもよいのか。  
→町内の法人ということになれば、それに加えて「楽久園会」「千ヶ峰会」も考えられる。話を進めていることはなく、受けていただけるかどうか分からない。中区内の3法人は社会福祉法人であるので、公私連携法人として問題ない。中区内の3園には年に2回、園訪問をさせていただき、教育委員も同席のうえ、各クラスの月案、週案、日案を見ながら訪問指導を行っている。ある園では朝、登園すれば「ののさま」に手を合わせて一日の無事を祈り、降園する際には手を合わせて帰宅している。日本人として感覚的に全く拒否するものではないし、宗教色が強いと感じたこともない。教育委員も同感であり、そのような心配はないと思う。
- ・公私連携型は、どのような内容を協定するのか。  
→まず協定の期間を設定し、どの部分までを協定書に盛り込むかが問題である。例えば、法人の理事会に教委職員を必ず入れ、毎回の理事会に出席させるなどをうたうことができる。実際に宍粟市の場合はそうにしている。協定の内容については、子ども・子育て会議で協議していきたい。
- ・民営化が決まった場合、実施は早くていつごろになるか。  
→平成29年3月に方針を出し、議会の議決までもっていききたい。もし民営化が決定すれば、法人の公募・決定に1年、法人が決定後に移行準備・合同保育に1年で、最低でも2年はかかる。よって、早くて平成31年4月とな

るが、もっとじっくり進めよということなるかもしれないので、時期は分からない。

- ・キッズランドかみでは今年、方針が大きく変わり、保護者に対してあまり説明がなかったように思うので、保護者の意見を聴くようにしてほしい。また、キッズランドやちよは建物がかなり古いので、かみとの条件差はどうするのか。  
→今年から両キッズで共通した10項目の保護者アンケート調査を実施している。結果はすべて保護者の皆さんにお知らせしており、保護者の方の苦情は教委も理解している。このアンケートは町内すべての園で今年から実施しており、毎年続けていく。民営化に向けては、保護者、法人、町の三者で構成する三者懇談会を継続開催する予定にしており、保護者の皆さんのご意見は大切にしている。キッズやちよの建物はかなり老朽化が進んでいるので、かみと同条件とするために、修繕して渡したいと考えている。ただ、先に建物を法人に譲渡し、譲渡後に修繕をすれば国・県の補助金が出るので、譲渡後に直すことを条件にしたいと考えている。
- ・教育・保育の質の確保のために、どんなことを考えているか。民間法人が運営されるのに、補助金を出す必要があるのか。  
→一番心配されている部分だと思うが、教育・保育の質が下がることは、あってはならないことと捉えている。町内5園の5歳児教育カリキュラムの統一化を検討しており、平成28年度から作成に取りかかりたいと計画している。また、民間園の保育所や認定こども園等には、国・県・市町村が運営補助をする仕組みになっており、公立園には運営補助がないことをご理解いただきたい。
- ・加美区の子が、区域外の施設へ通うという選択肢はあるか。  
→できれば区内の施設へ通っていただくのが望ましいが、他の区の施設へ、また町外の施設へ通うことは可能であり、現状でも可能である。
- ・子ども・子育て会議で、民営化に絶対反対という方はいるか。  
→現状の議論の中で、反対意見を持っておられる方もいる。
- ・合同保育、引継ぎ保育は必要なのか。  
→子どもたちに混乱が起きないように、早くから民間園の保育士に子どもたちが慣れていただくために、合同保育、引継ぎ保育は必要と考えている。
- ・中区内の認定こども園では、合同保育や引継ぎ保育はしたのか。  
→中区内の3保育所は、保育所の経験は豊富だが、幼稚園教育の経験がなかったため、3～5歳児担当の先生に県内の各幼稚園で幼稚園教育の研修を受けていただいた。幼稚園研修は、今年2年目になる。
- ・もし中区の法人が受けた場合、法人の扱いはどうなるのか。  
→中区内の運営は社会福祉法人で、加美区、八千代区の運営は公私連携法人ということになる。
- ・今後、地域の皆さんとの懇談会、また両キッズ保護者会総会の場合での懇談会などを開いていき、皆さん方のご意見をお聴きし、子ども・子育て会議で方向性を出していきたいと考えている。地域との懇談会にもぜひご出席いただき、いろいろご意見をお聴かせいただきたいと思います。（こども未来課）



## 中区地域協議会 記録

平成28年2月26日(金)19:30～  
多可町役場第1会議室

### ◆出席者（敬称略）

橋本勝明会長、藤浦重美、吉田隆夫、内橋志郎、藤原 孜、南畝一郎、眞鍋秀男、  
時永尚樹  
岸原教育長、今中教育総務課長、今中こども未来課長  
原地域振興課長、板倉主査

### ■主な意見・質問と内容

- ・民営化の理由として、町財政の支出を抑えていくため、また子どもたちに借金を残さないために経費の節減を図っていくという説明があった。その一方で、節減できた経費を子どもたちのために使うとあるが、節減できた経費をどの程度、子どものために使うのか。  
→節減できたお金の一部であり、2,000万円とか3,000万円とか、4,000万円とかを子どもたちのために使いたいと考えている。具体的に何に使うのかは、子ども・子育て会議で協議していきたい。
- ・中区では3園の運営実績があるので十分に対応可能という説明があり、後半の部分では町内の法人で公募したいと書かれているが、中区内の3園に限定をするということか。  
→町内の法人ということになれば、3園以外に、楽久園会、千ヶ峰会もあるが、受けていただけるかどうかは話もしていないので分からない。町内の法人で信頼できる人をお願いするほうが、加美や八千代の皆さんに理解していただきやすいという思いから、とりあえず町内と書いた。町内に限定せず、もっと公募の範囲を広げてやるほうがよいという意見が出れば、子ども・子育て会議で協議していくことになる。
- ・教育・保育の質が下がることのないようにと書かれているが、民営化になれば質が下がる心配があるのか、どうも心配があるような書きぶりであるが。  
→民間が決して悪いということではなく、公立も民間も教育・保育の質向上に向けて一生懸命に取り組んでいただいており、差はないと理解している。質が下がることがあってはならないことなので、そのような意味を含めて書いている。
- ・民営化が決定すれば、どのくらいのスケジュールで実施になるのか。  
→仮に民営化が決定すれば、法人の公募、決定に1年、法人が決まったあと三者（保護者、法人、町）懇談会を設置し、合同保育のあり方などを調整していくのに1年と、最低でも2年はかかるとみている。早ければ最短で平成31年4月ということになるが、民営化の実施時期も含めて、子ども・子育て会議、三者懇談会等で協議していきたい。
- ・民営化が進めば、こども未来課の仕事は少なくなっていくのではないか。  
→民営化をしても、こども未来課の仕事は減らないと理解している。園所長会や園訪問はこれまでと変わらず開催していき、各園との連携をしていかなければならないし、また、町内保育料の調整やすべての園の入退所事務などはこども未来課がやるべき仕事なので、今まで以上に仕事はあると考えている。
- ・両キッズランドの耐震化工事はできているか。  
→両園ともできている。
- ・土地はすべて町有地なのか。  
→キッズランドかみの土地はすべて町有地で、キッズランドやちよの土地はほとんどが町有地で、一部、個人からの借地がある。
- ・建物は無償譲渡もしくは無償貸与とあるが、なぜ無償なのか。  
→建物を建設する際に国・県から補助金をもらっているため、補助金返還をしなくてもいいように、無償譲渡もし

くは無償貸与としたい。できれば無償譲渡をして、あとの維持管理はすべて法人にお任せできればと考えている。町の建物であれば修理の際に補助金が出ないが、法人に譲渡すれば修理の補助金が出る。

- ・キッズの正職員、嘱託職員はそれぞれ何人で、どうなっていくのか。  
→両園合わせて正職員が15人、嘱託職員が37人いる。正職員については、こども園の職員として採用してもらうのか、町の一般事務職へ異動するのかの選択になるが、恐らく多くの職員が町の一般事務職へ異動を希望すると考えている。民営化後の数年間は2園へ数名ずつ、町職員からの派遣としてこども園に行くことになるが、数年後には全員が引き上げることになる。嘱託職員は、できるだけ法人に職員として採用していただくように調整していきたい。
- ・嘱託職員、臨時職員は、認定こども園の正規職員として採用になるのか。中区の3園の現状は、正職員ばかりか。  
→キッズの嘱託職員はできるだけ法人の正職員として採用してもらうように調整していきたいと思うが、採用試験、採用するのは法人であるので、全員が採用になるかは分からない。キッズの臨時職員は、時間給対応の職員であり1日に数時間の勤務であるので、正職員への採用はまず難しいと思う。現状で、中区3園には、正職員と、時給対応の非常勤職員がそれぞれおられる。
- ・やちよの建物は何年経っているのか。修理してから渡すのか。  
→かみが5年、やちよが16年経過している。やちよについては、かみと同条件とするため修理してから渡したいと思うが、譲渡してから修理すれば国・県の補助金が使えるので、譲渡後に修理を考えている。
- ・引継ぎ保育では、キッズの正職員が何年ほど派遣されるのか。  
→町職員という立場で、こども園への派遣ということになるが、2園へ数名ずつの派遣を考えている。派遣の年数については、とりあえず2～3年を考えているが、年数と人数については子ども・子育て会議、また三者懇談会で協議していきたい。
- ・「ご意見やご質問があれば、こども未来課へお願いします」とチラシにあるが、この用紙はどこかへ配付されるのか。  
→平成28年4月号の広報たかへの掲載を予定している。今後、保護者や地域との懇談会でもこの資料を使って説明し、また区長会へも説明をしていきたいと考えている。
- ・建設事業にかかる起債の償還は残っていないのか。  
→キッズやちよについては、平成27年度末残高が9,600万円で、平成32年3月まで償還が残っている。かみについては、平成27年度末残高が2億3,400万円で、償還は平成39年3月まで残っている。いずれにしても返金しなければならないので、今後の交付税の減額を考慮すると、両キッズを民営化して国・県の補助を受けるほうが有効と考える。

# キッズランドかみ保護者懇談会記録（保護者会総会後に開催）

「公私連携による両キッズランドの運営（民営化）について」

平成28年4月30日（土）11:15～11:45

出席者：保護者 約130名

事務局：岸原教育長、こども未来課 今中、市位

内容：教育長あいさつ

こども未来課から資料による説明

意見交換会

## ■主な意見と内容

- ・ 公私連携幼保連携型認定こども園の事例は近くにあるか。  
→この制度は昨年4月にできたばかりなので関西でも事例が少ないが、兵庫県内に1つ、宍粟市の「ちくさ杉の子こども園」がある。旧千種町は加美や八千代と同じように、公立園しか経験のない地域で、民営化にもっていくのはかなり難しかったようであるが、公私連携方式で取り組み、成功した事例である。
- ・ 公私のそれぞれ良いところを織り交ぜながら、とあるが、それぞれ良いところはどこか。  
→今までずっと公立で続いてきたので、保護者の皆さんに安心していただける点であると思う。民間の良いところは、国県から手厚い補助金をもらえるので、お金をいろんなことに使える点である。公立・私立にかかわらず、同じ教育・保育を受けている。
- ・ 公立も私立も、子どもたちは同じように教育・保育を受けていると理解してよいか。  
→公立も私立も、国が示している保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育保育要領に基づいて教育・保育を行っており、どれも5つの領域に沿って指導している点ではまったく同じである。
- ・ 民営化のメリットばかりが並べられているように思うが、デメリットはないのか。  
→民営化になれば数年後にはキッズランドの正職員がすべて抜けてしまうことになると思うので、これが一番のデメリットであると考えている。保育士経験の長いベテランの先生方が抜けられることになるが、7割の嘱託職員がほぼ残ることになると思うし、民営化後は法人からベテランの保育士さんが園長、主任としてお越しになることになるので、今と変わりなくしっかり教育・保育をやっていただけたと考えている。
- ・ 4園を統合しキッズランドかみができたのがついこの間のように思うが、早や民営化の話が出てくるとは、と皆さんが思っていると思う。先ほど、宍粟市の事例をお聞きしたが、その後保護者からどのような意見が出ているのか、アンケートなどを含めてしっかり調査してほしい。  
→私たちも一番気になっていることなので、宍粟市の事例をしっかり調査し、今後の検討に生かしていきたいと思う。昨年6月に宍粟市を視察させていただいたが、運営1年後の経過が気になるので、ぜひ子ども・子育て会議で再度見に行かせてもらいたいと計画中である。

大勢の皆さんの場ではなかなかご意見も出にくいと思うので、ご意見はキッズランドまたはこども未来課へお寄せいただきたい。また、キッズランド選出の子ども・子育て会議委員さんにお伝えくださってもよい。皆さんからのご意見をいただく方法は、今後、所長、保護者会長様と相談し、決めていきたい。6月2日（木）午後8時から加美プラザで開催の「地域との懇談会」にぜひお越しいただきたい。

## キッズランドやちよ保護者懇談会記録（保護者会総会後に開催）

「公私連携による両キッズランドの運営（民営化）について」

平成28年5月7日（土）11:30～11:55

出席者：保護者 約120名

事務局：岸原教育長、こども未来課 今中、市位

内容：教育長あいさつ

こども未来課から資料による説明

意見交換会

### ■主な意見と内容

質疑・意見は、なし。

大勢の皆さんの場ではなかなかご意見も出にくいと思うので、ご意見はキッズランドまたはこども未来課へお寄せいただきたい。また、キッズランド選出の子ども・子育て会議委員さんにお伝えくださってもよい。メールによるご意見は、こども未来課 [kodomo@town.takagi.jp](mailto:kodomo@town.takagi.jp) へ。6月1日（水）午後8時から八千代プラザで開催の「地域との懇談会」にぜひお越しいただきたい。